

不登校・行き渋りの 見立てと対応

2023年7月20日

発達クリニックCan 院長

こども発達支援センターあすいろ 嘱託医

遠藤尚宏

本日の流れ

- 対応のポイント
- 事例をもとに考える、見立ての行い方
- 対応の原則

対応のポイント

- 周囲の心構えが大切。落ち着くこと
- 見立てをしっかりと行えば、対応も自然に見えてくる
- 正しい対応をすれば、登校できる、というものでもない
⇨ 登校したら解決したのか？何がゴールなのか考える
- 長丁場になることもあるので、保護者の支えを増やす

対応のポイント

- 現状維持でも前に進んでいる
- 試行錯誤できているだけでも十分
- 減点方式よりも加点方式で考える
- だまし討ちしない
- 拒否する権利を認める

見立て、解釈と
それに必要な知識

不登校 こどもの心理（平成29年度文科省調査より）

- 不安

人とかかわることへの不安、見通しが立たないことへの不安

- やる気・興味の低下

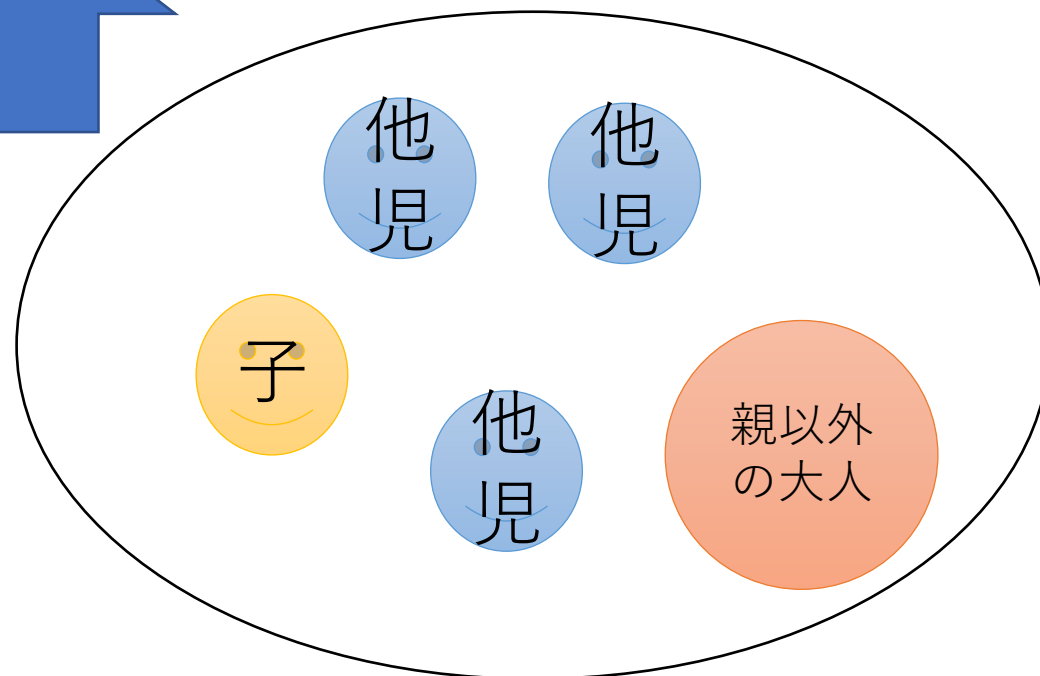
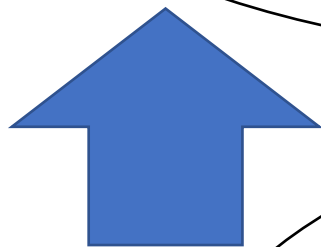
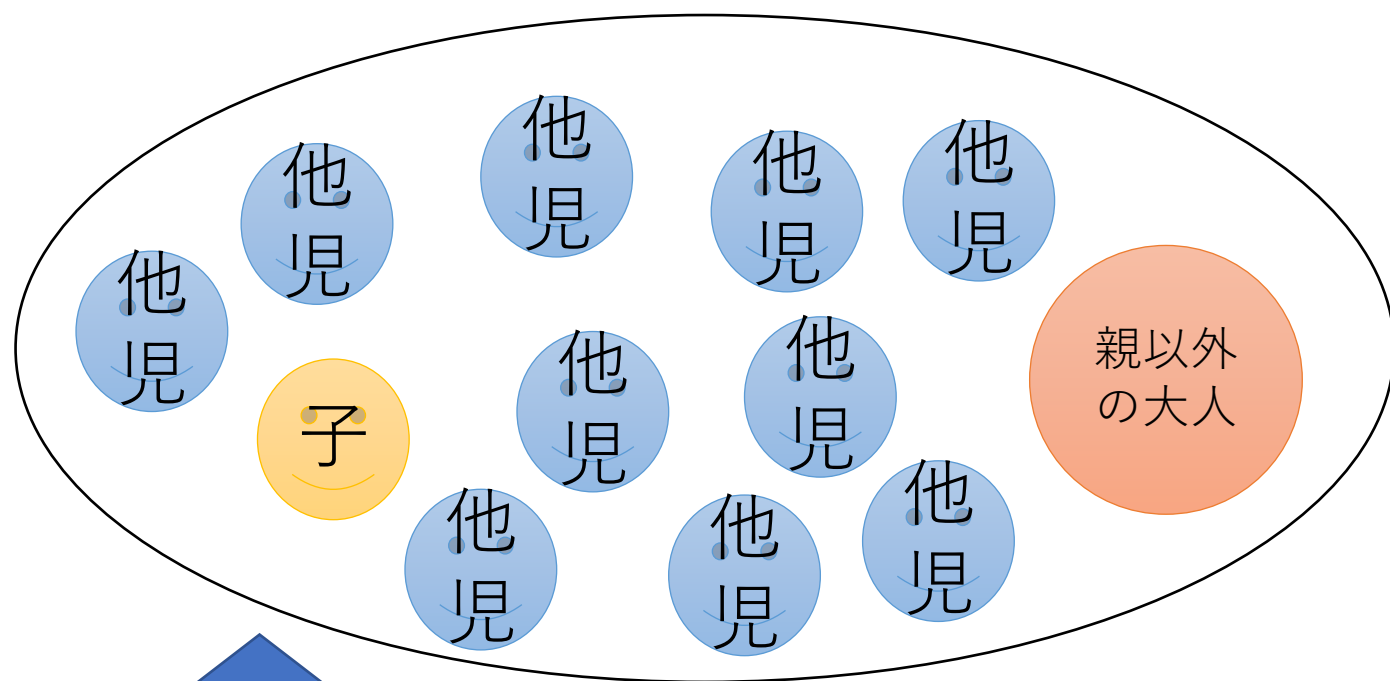
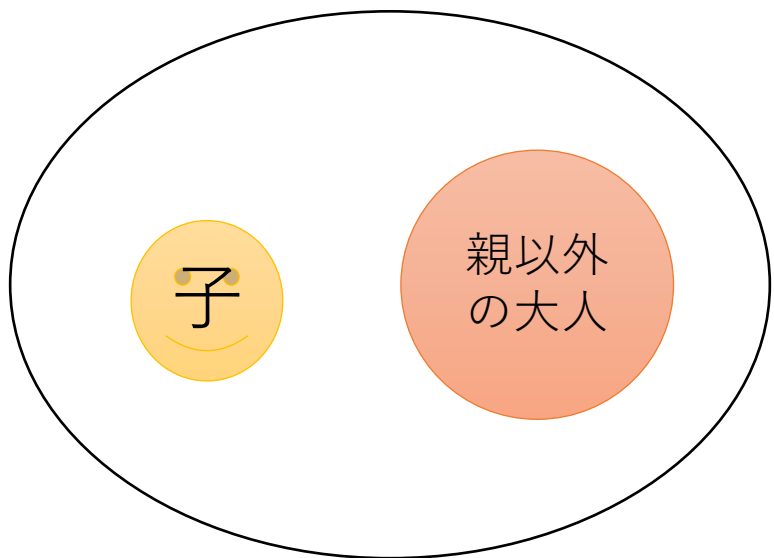
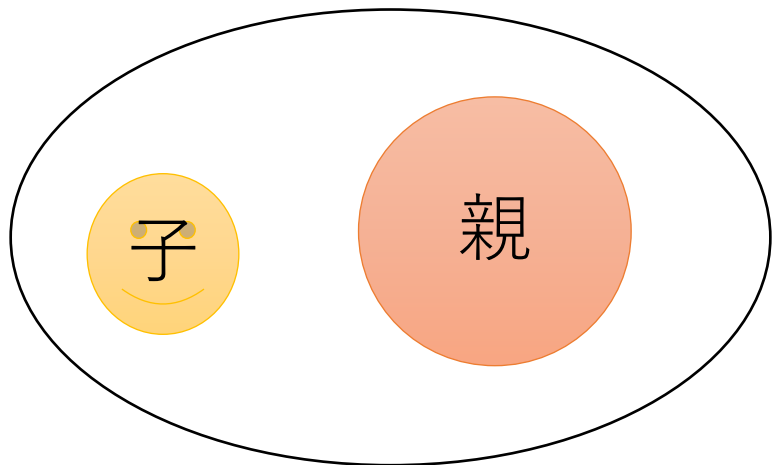
勉強、学校のルール、家庭機能の弱さ

- 対人面での問題

いじめ、教職員との問題

- 個別性（"事例性"）

集団への移行



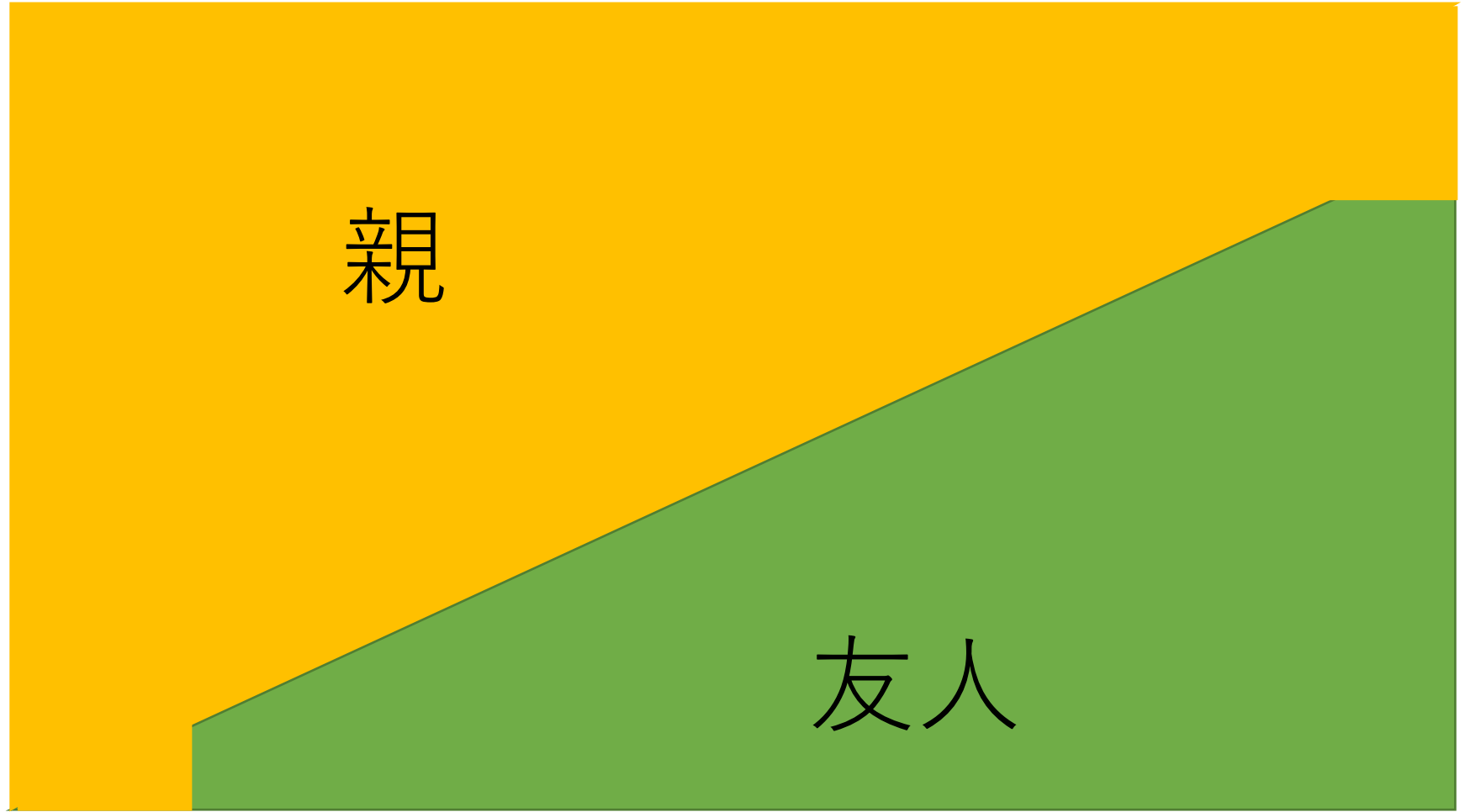
心理的つながりの発達的变化

乳児期

幼児期

学童期

思春期



親

友人

子どもの発達：社会性（対人面）

6か月

- ・（1歳半にかけて）他者の表情を意味づけする力が育ってくる（social referencing） 例：段差

1歳

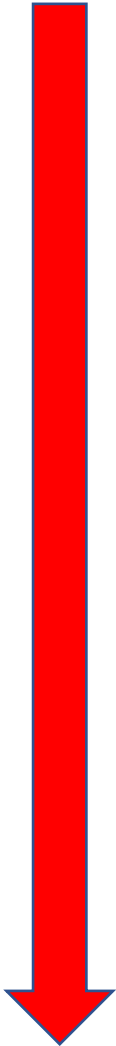
- ・1歳半には愛着による記憶によって自分自身を安心させられる

1歳半

- ・他者の注意を自分の興味の対象物へ向けようとする（joint attention）

2歳

- ・他の子と同じ場所で遊べるようになる
例：砂場で各々砂遊びをする



子どもの発達：社会性（対人面）

- ・ 2、3歳頃から「いい事」、「悪い事」がわかるが、あくまで大人の承認を得たいため。気持ちや考えに一貫性はない。
- ・ 4歳あたりには相手が自分と違う考えを持っていることに気付く (theory of mind)。順番を守ることの大切さがわかるが、不公平だと文句を言う
- ・ 4歳頃からは他の子と協力して遊べるようになる。
例：砂山を一緒に作る。
- ・ 5歳になっても、他の子の視点でものを考えることは多くない

子どもの発達：社会性（対人面）

- 6～8歳 時間軸を意識しづらい
= 後先考えない行動様式
 - 9歳～ 大人のミニチュアのような社会を
形成しはじめる
= 「暗黙の了解」が求められる
- 状況を読めない子、視覚的情報がわかりづらい子、他者の思考を読めない子はつらい思いをする

思春期の心理発達過程

齋藤万比古を改変



不登校の状態評価

心身症医学会ガイドラインより

状態 0	登校できる	外出できる	ほぼ平常に登校している
状態 1			遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い
状態 2			保健室・相談室登校 半分以上欠席
状態 3	登校できない	外出できない	学校以外の施設への定期的参加 ができています
状態 4			比較的気軽に外出できる
状態 5	登校できない	外出できない	家庭内では安定しているが、外 出は難しい
状態 6			部屋に閉じこもり、家族ともほ とんど顔を合わせない

不登校の対応 周囲の心構え

- 不登校そのものは（子どもの）病気や障がいではない
- 不登校は子どもと学校の **ミスマッチ** としてアプローチしたほうがよい
- だまし討ちしない
- 拒否する権利を認める

不登校の対応 周囲の心構え

- “現状維持でも前に進んでいる”
- 試行錯誤できているだけでも十分
- 減点方式よりも加点方式で考える

こどもに必要なだと感じるもの

健康・安全の確保が前提

☆（同世代の）仲間

☆居場所

☆学習保障

こどもに必要なだと感じるもの

健康・安全の確保が前提

☆（同世代の）仲間

☆居場所

☆学習保障

対応のポイント

- 周囲の心構えが大切。落ち着くこと
“現状維持でも前に進んでいる”
- 見立てをしっかりと行えば、対応も自然に見えてくる
- 正しい対応をすれば、登校できる、というものでもない
⇨登校したら解決したのか？何がゴールなのか考える
☆仲間、居場所、学習保障
- 長丁場になることもあるので、保護者の支えを増やす

発達を見守る会

ホームページ <http://www.hattatsu-mimamoru.com/>

過去の講義資料が載っています